

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	下妻公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者団体	公民館の利用団体数	目標	3,000	1,900	1,260	団体	
		実績	2,232	1,576				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者数	公民館の利用者数	目標	40,000	26,100	19,200	人	
		実績	31,251	24,055				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	12,507	11,647	22,669	22,669	22,669			
事業経費	7,307	6,447	17,469	17,469	17,469			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80			
概算人件費	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	存続させるか新しい文化施設を建設するか検討中である。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適正である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予定通りの管理運営ができた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最小限の修繕にとどめた。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	見直しが必要	新しい文化施設を建設するか検討中である。	
	事業の方針	継続	現在検討中。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	下妻公民館と市民文化会館については、今後の方針を検討中のため、方針が決定するまで修理等を見合わせなければならない。
今後の取組み	下妻公民館の今後の方針次第であるが、存続させるのであれば大規模な修繕が必要であり、新しい施設を建設するとすれば最小限の修繕にとどめる。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	大宝公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者団体	公民館の利用団体数	目標	1,500	1,500	1,040	団体	
		実績	1,223	1,307				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者数	公民館の利用者数	目標	21,000	21,000	13,600	人	
		実績	17,507	17,120				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	11,059	11,101	11,357	11,357	11,357			
事業経費	5,859	7,201	7,457	7,457	7,457			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	0.80	0.60	0.60	0.60	0.60			
概算人件費	5,200	3,900	3,900	3,900	3,900			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	貸館の利用率が高いため、必要性は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予定通りの管理運営ができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標に近づいた。	
	手段の妥当性	妥当	市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する。	
	事業の方針	継続	現状維持で行うべきである。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公民館利用者が施設を快適に利用できるように、限られた予算の範囲内で不良箇所等を随時改善し、良好な環境を維持しなければならない。
今後の取組み	建設してから30年以上が経過し、空調設備や消防設備など老朽化が進んでいるため、建設的な修繕が必要である。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	千代川公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位
	利用者団体		公民館の利用団体数	目標	1,600	1,600	1,350
			実績	1,596	1,690		

成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位
	利用者数		公民館の利用者数	目標	34,000	34,000	28,100
			実績	33,315	35,236		

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	15,986	20,778	19,055	19,055	19,055			
事業経費	10,786	11,028	9,305	9,305	9,305			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	0.80	1.50	1.50	1.50	1.50			
概算人件費	5,200	9,750	9,750	9,750	9,750			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	ホールや貸館する部屋が多いため、必要性は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館の構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予定通りの管理運営ができた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標に近づけた。	
	手段の妥当性	妥当	市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する。	
	事業の方針	継続	現状維持で行うべきである。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公民館利用者が施設を快適に利用できるように、限られた予算の範囲内で不良箇所等を随時改善し、良好な環境を維持しなければならない。
今後の取組み	建設してから30年以上が経過し、空調設備や消防設備など老朽化が進んでいるため、計画的な修繕が必要である。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	市民センター管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適正な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者団体	市民センターの利用団体数	目標	1,500	1,500	1,220	団体	
		実績	1,471	1,533				
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	利用者数	市民センターの利用者数	目標	24,000	20,000	17,600	人	
		実績	18,925	22,053				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	11,835	12,133	13,070	13,070	13,070			
事業経費	7,285	7,583	8,520	8,520	8,520			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70			
概算人件費	4,550	4,550	4,550	4,550	4,550			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民の集会施設・学習施設として利用度は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	市民センターの構造・利用者を熟知している市職員が行うべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで維持管理したため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標に近づけた。	
	手段の妥当性	妥当	市職員が管理し、必要な部分だけ今まで通り委託する。	
	事業の方針	継続	現状維持で行うべきである。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民センター利用者が施設を快適に利用できるように、限られた予算の範囲内で不良箇所等を随時修繕し、良好な環境を維持しなければならない。
今後の取組み	4市民センターとも、全体的に老朽化が進んでいるため、屋根・浄化槽等への計画的な修繕工事が必要である。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	公民館教室事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民のニーズに対応した多彩な講座を開催することで、市民同士が交流を深めるよう活動を支援する。				
内容	心豊かに生きるためのきっかけづくりとして市民が幅広く参加できるよう各種講座を開催する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	教室開設数	公民館及び地区館で開設した教室数		目標	36	37	31	講座
実績				36	34			
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	
	教室受講者数	公民館及び地区館の教室受講者数		目標	1,000	1,000	550	人
実績				832	654			
予算科目	区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	2公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額			
総事業費	11,164	10,707	10,845	10,845	10,845			
事業経費	4,209	3,882	4,020	4,020	4,020			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	1.07	1.05	1.05	1.05	1.05			
概算人件費	6,955	6,825	6,825	6,825	6,825			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	生涯学習の場を提供する講座として、必要性は高い。
		対象の適切性	適切	対象は受講者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	公民館を管理している市が推進すべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	市民のニーズに対応した講座を行っており、講座数も適当である。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	低コストで教室を行っているため、効率性は高い。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で目標を達成している。	
	手段の妥当性	妥当	公民館を管理している市職員が行うのが妥当である。	
	事業の方針	継続	教室の見直しをしながら継続していく。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	全教室とも高齢者が多くなり、教室を開講しても教室まで通うのが大変な受講者がいる。また、高齢者教室においては、毎回テーマが違うため、興味のないテーマの場合、欠席者が多くなってしまふ。
今後の取組み	人気のある教室は継続し、人気のない教室は見直しをしながら、関心を持っていただけるような教室に変えていく。

令和2年度 事務事業評価シート(令和元年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	公民館まつり事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館

1. 事業の概要(Plan)

目的	公民館や地区館の教室及びクラブの受講生が、活動学習の成果発表を通じて、受講生や地域住民の交流を深める。				
内容	各種教室の発表の場として、ステージ発表・作品展示・体験教室を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位
	広報活動	ポスター・お知らせ版・防災無線等により広報した回数	目標	4	4	0	回
		実績	4	4			
成果指標	指標名	説明	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位
	教室等の参加人数	発表・展示の参加人数	目標	450	800	0	人
		実績	708	950			
予算科目	区分	一般会計	10教育費	項	5社会教育課	目	2公民館費
事業費(千円)	H30決算額	R1決算額	R2予算額	R3予定額	R4予定額		
総事業費	371	391	391	391	391		
事業経費	111	131	131	131	131		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事職員等数	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04		0.04
概算人件費	260	260	260	260	260		260

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民のニーズに適した事業である。
		対象の適切性	適切	対象は受講者になるため適切である。
		主体の妥当性	市が推進すべき	教室受講生等との信頼関係が必要なため、市が主体になるべきである。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	予想通りの結果になり、事業は有効である。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最低の経費で行っているため、削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	受講者との信頼関係が必要なため、職員が企画するのが妥当である。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公民館教室の成果を発表する場であるにも関わらず、クラブの参加が多くレベルが高くなりすぎ、教室の受講者が委縮してしまい、参加を躊躇する教室がある。
今後の取組み	公民館教室受講者が気軽にステージ発表・作品展示ができるような雰囲気をつくり、教室とクラブの交流を深め、誰もが楽しめるような公民館まつりにする。